

2025年度 甲南女子中学校・高等学校の目標設定及び学校評価

重点目標	具体的な取組	自己評価		
		達成状況	評価	
1. 授業に対する満足度の向上を図る	(1) 生徒主体のわかりやすい授業を展開する。 (2) 基礎学力を強化するための講習や習熟度別授業を実施する。 (3) 教員を対象に、DAL（ディーブアクティブラーニング）型授業の研修を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> アンケートにおいて、「わかりやすい授業が行われている」と回答した生徒が昨年比+7.8%と増加した。 数学・英語について、中1・中2の低位層を対象とした「放課後講習（Kステップ）」を実施した。 中2の数学、中3の英語で習熟度別授業を実施し、意欲的に授業に参加する姿勢がみられた。 社会科でDAL型授業を行い、生徒が問いを立て、自分の言葉で表現して、学びを自分事化する機会が増えた。 	△	<ul style="list-style-type: none"> さらに肯定的な評価の伸長を目指して、授業の工夫に努める。 Kステップの対象者を中位層にも広げて、自学自習できる力を育成する。 夏期講習等を活用して、他教科でもDAL型授業の実践機会を増やす。
2. 生徒の主体性を育てる	(1) 学校行事や和光会（生徒会）活動を推進する。 (2) 探究活動を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> 各委員会において活動目標や計画を作成し、新たな取組「和光に湧こず」を通じて生徒の意見把握を実施できた。 講堂朝礼を年間17回開催し、生徒主体で運営を行った。 高2の探究活動では、甲南リサーチフェスタにて審査員特別賞を受賞した。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の意見を段階的に反映し、参画意識を高めていく。 講堂朝礼は、次年度も同様に生徒主体での運営を続ける。 探究活動においては、総合型選抜入試での活用を見据えながら指導を継続していく。
3. 進路志望の実現を図る取組を強化する	(1) 英検取得率の向上を推進する。 (2) 理系志望者のニーズに応えるため、甲南大学との高大連携を推進する。 (3) 高校2年次に総合的な探究の時間を設定したカリキュラムを策定する。 (4) 現行2コース制の特色を見直すとともに、生徒のコース変更の仕組みを策定する。	<ul style="list-style-type: none"> 英検対策講習を夏・秋・冬の3回実施した。 甲南大学の理系学部や理系女子プログラムの説明会を実施した。 2027年度高校1年生から、高校2年次に週2時間の総合的な探究の時間を設定することとした。 2027年度中学1年生から1学年150名とし、中2から3コース体制となる新しいコース制の開始を決定した。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 英語力上位層に上位級への挑戦を促し、授業と英検を連動させていく。 2026年度より高1探究の授業で甲南大学理工学部の3講座を開講し、連携を強化する。 2028年度高2の総合的な探究の時間のシラバスを作成する。 新コース制における細部の取扱等を詰めていく。
4. 生徒募集力を強化する	(1) 新規Web広告を掲出する。HPをリニューアルする。 (2) 広報活動において学園内連携を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> Instagram広告の校内運営を開始した。 HPのリニューアルを行い、「甲南女子の新たな取組」コーナーを新設して、随時特色ある取組を掲載した。 大学部門と連携して、秋のアートフェスティバルを開催するとともに、甲南大学キッズフェスティバルに参画した。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 「甲南女子の新たな取組」コーナーを定期的に更新することで、動きのある学校として訴求していく。 新コースの特設ページを設置し、受験生にPRしていく。 大学部門主催のイベント等に参画し、大学が発信する媒体に中高の露出機会を拡充することで、認知度の向上を図る。
5. 海外大学への進路希望に応える体制を構築する	(1) 海外大学への進学システムを検討する。 (2) 短期・中長期の海外留学制度を拡充する。	<ul style="list-style-type: none"> I.F.U（国際大学連合）と3か国6大学進学に関する連携推薦協定を締結し、海外大学への進学支援体制を構築した。 英国チェルトナム地域への留学制度を開始し、高1・高2の参加者の英語力が大幅に伸長した。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 中学入学時から海外大学への進学に関する情報を継続的に提供する。 留学説明会や報告会の開催を促進し、生徒の関心に合わせてプログラムの拡充を図る。
6. 不登校などの生徒の学びの機会を保障する	(1) ICTを活用した遠隔授業の実施を検討する。 (2) 教務規定の見直しを検討する。	<ul style="list-style-type: none"> 体系的な学習支援の仕組みの整備に向け、様々な課題を抽出するなど検討を進めた。 	△	<ul style="list-style-type: none"> リモート授業について技術的および運用上の課題を整理するなど、引き続き検討していく。
7. 教育DXを推進する	ICTを活用して、学習時間の可視化と保護者との連携強化を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 学習記録の入力により、生徒の意識づけに一定の成果がみられた。 	△	<ul style="list-style-type: none"> 日々の学習を記録する意義を生徒に伝え、主体的な学習習慣の定着に結びつけていく。

以上